

⑧日野郡の取り組み

研究主題

「運動の楽しさを味わいながら、仲間とかかわり合い、

高め合う子どもを育てる体育学習」

1 研究仮説

運動の特性をふまえ、身につけさせたい技能を明確にし、仲間と言語活動を通じたかかわりを持たせながら学習に取り組ませることで、運動の楽しさを味わいながら技能を習得できるのではないかと。以下の視点を基に「勢いのある体育学習」の充実・発展を図ってきた。

◎研究の視点

ア)運動の楽しさを感じるために（主体的な学び）

「わかる」と「できる」を大切にし、つないでいく指導の工夫と充実。

イ)かかわり合いのある学び（対話的な学び）

多様なかかわり方と場の設定の工夫、ICTの効果的な活用。

ウ)高め合いのある学び（深い学び）

さまざまな言語でかかわり合い、「わかり方」を保障する。

2 主な活動

（1）郡小体研総会（5月7日）

- ・平成30年度事業・会計報告
- ・令和元年度研究推進計画の決定および役員選出
- ・「第57回中・四国小学校体育研究大会（徳島大会）」領域別分科会発表へ向けた取り組みスケジュール・運営計画の検討

（2）研究推進委員会

- ・領域別分科会発表「体づくり運動領域」へ向けた取り組みの協議

7月5日 根雨小 発表原稿検討

9月13日 根雨小 発表プレゼンテーション見なおし 等

※指導助言 鳥取県教育委員会体育保健課 指導主事 諸家 馨 指導主事 （両日とも）

（3）夏季一泊研修会参加（8月8日・9日）

- ・領域別分科会 プレ発表「体づくり運動領域」 恵比奈 宏志 教諭（江府小）

（4）中・四国小学校体育研究大会【徳島大会】参加（11月15日）

- ・領域別分科会発表「体づくり運動領域」 恵比奈 宏志 教諭（江府小）

「より運動の楽しさを味わい、運動が好きになる体ほぐしの運動」

—「心は一つ！体も心もほっかほか」の実践を通して—

（5）全体研修・反省会（2月）

- ・今年度の研究のまとめと活動の反省、今後の研究推進について

3 まとめ

昨年度に第38回鳥取県小学校体育研究大会（日野郡大会）を根雨小学校をメイン会場として実施した。日野郡内の4つの小学校が取り組んできた「勢いのある日野郡の体育」を引き続き実践するとともに、今年度は中・四国小学校研究大会（徳島大会）の領域別提案（体ほぐし運動）に向けて研究大会の成果をもとに実践を重ね、研究を進めてきた。夏季一泊研修でのプレ発表に対する参加者からのご意見、ご質問をもとに提案内容の検討を一層進めることができた。中・四国小学校体育研究大会（徳島大会）では、恵比奈宏志教諭が日野郡の代表として素晴らしい研究成果を発表した。

実践事例①【「わたしたちの体育」を活用した実践】

第3学年「小型ハードル走」の実践を通して

日南町立日南小学校 浦木 秀徳

1. 「だんボール箱レーン」の活用

チームで相談して、好きなところにだんボール箱を置きなさい。

と指示すると、子どもたちは相談しながら思い思いのところにだんボール箱を置いて行った。



個人で走った後、リレー形式でチームごとに対戦した。リレーにすることで、だんボール箱をどこに置いたらよいのかなど、話し合い活動が活発となった。

子どもたちは、最初、スタート位置から近い場所に間隔を狭めてだんボール箱を置いていた。殆どのチームが、まず“だんボール箱”を全て跳び越してから、一気に走るという作戦を立てていた。そんな中、だんボール箱を40mのコースに均等に配置したチームが優勝した。すると、どのチームも「どうして黄組が速いのか」を分析し始めた。

何度か走るなかで、子どもたちは、だんボール箱を速く跳び越えるためには、だんボールの間隔と

リズムとタイミング

が、大切であることに気づくことができた。

【児童の感想】

- ・だんボール箱レーンは、リズムが大事でした。隙間を空けると簡単で跳びやすかったです。
- ・小型ハードルは、陸上クラブの練習でやったことがあるけど、今回はだんボールだったので大きさが違い、難しかったです。リズムが大事なので、いろいろ工夫してやってみました。
- ・一番速かったチームのマネをしてみました。リズムとタイミングとだんボールとだんボールの幅が大切だと分かりました。



2. 「小型ハードル走」の実践

だんボール箱レーンで、ハードル走においての一番大切なポイントを学んだあと、グラウンドで実際にハードルを使った小型ハードル走を行った。

まずは、ハードルを跳び越すときのフォームについて学習した。ハードルを跳び越すポイントの一つは、振り上げる足の

足の裏

を見せることである。

そこで、一緒にハードルを越える練習をした後、二人一組になって練習を行った。ペアの児童が走

る時に正面から観察し、足の裏が見えていたら合図を送るようにした。



このように児童同士で確認することにより、大切なポイントをより客観的に認識できるようになった。

次に、インターバルの歩数である。最初インターバルは、4 mと5 mで好きな方を跳ぶようにした。歩数を自分で数えさせたところ、

3 歩～6 歩

が多かった。

ある程度練習した後、以下に統一した。条件を次に示す。

- ①距離 40 m
- ②インターバル 5 m
- ③ハードル 4 台



この条件で、二人一組になり歩数について確認した。

- ①着地の一步目は「0」とする。
- ②走っている人に分かるように「0、1、2、3」と声に出して歩数を数える。

このようにしてペアで数えると先ほどの「足の裏」と同様、客観的に自分の歩数を知ることができる。

この後、40 m小型ハードル走の記録をとった。

	1 回目	2 回目 (練習後)
A 児	12"08	10"43
B 児	13"33	10"39
C 児	10"78	8"09
D 児	13"36	10"03
E 児	12"32	9"30
F 児	11"15	8"87
G 児	12"15	9"39
H 児	11"33	8"97
I 児	11"21	10"70
J 児	10"79	8"75
K 児	11"60	10"60
L 児	13"03	11"40
M 児	17"37	12"59
N 児	12"31	10"86
O 児	14"37	13"14
P 児	11"04	8"94



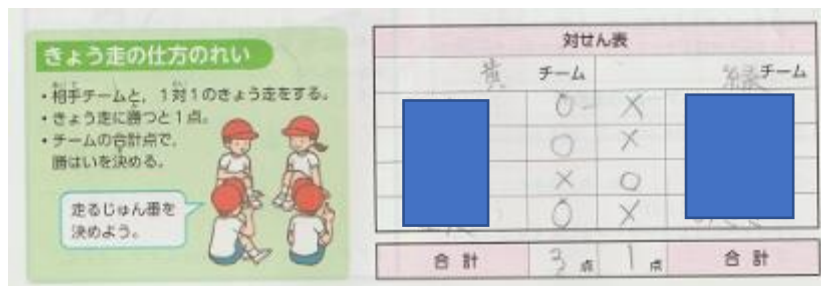
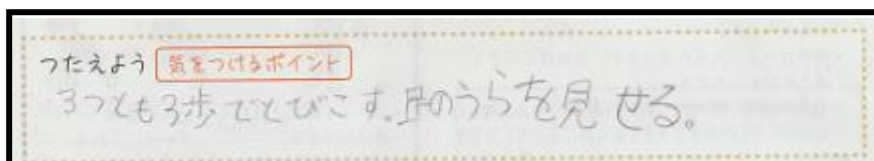
この結果から、3年生においても正しい跳び方を学習すれば、記録が伸びることが分かる。

尚、記録を取るにあたって、準教科書の「つたえよう 気をつけるポイント」を活用した。

実際に学習したことを文章に表

すことで、運動のポイントを自分自身で確認することができた。

単元の最後には、準教科書で紹介されている競争を行った。



子どもたちは、これまでの学習で身に付けた小型ハードルの技能を発揮して、力一杯活動することができた。

【児童の感想】

- ・小型ハードルを初めてやったときは難しかったけど、だんだん簡単になっておもしろかった。
- ・足の裏を見せて跳ぶのは難しかったけど、初めは 11 秒だったのが 8 秒になってうれしかったです。
- ・小型ハードル走は、蹴り足を前に向けることと、リズムよく跳ぶことが大事です。私が最初計ってもらったら 12 秒でした。体育で練習をして、最後は 10 秒まで速くなってうれしかったです。友だちには 8 秒くらいの人がいてすごいと思いました。
- ・足の裏を見せるのは難しかったけど、速く走れてよかったです。
- ・最初は 10 秒だったけど、8 秒になってよかったです。インターバルも 3 歩で行けました。
- ・小型ハードル走の最後の授業で、組で競争したのがおもしろかったです。黄組が 1 位になってうれしかったです。
- ・ぼくは、初めてハードルを跳びました。たくさん練習すると上手に跳べることができました。
- ・インターバルは、3 歩でも 4 歩でもリズムよく跳ぶことが大切だと分かりました。
- ・体育で小型ハードルをして、練習した結果、タイムが 5 秒も縮んでいる人がいてすごいと思いました。
- ・スタートしてからの 13m を力一杯走ることが大事だと分かりました。
- ・練習するとタイムが縮まることが分かったので、また小型ハードルをしてみたいです。

【教師の感想】

準教科書を活用することで、子どもたちは絵や吹き出しなどから学習の見通しをもつことができ、主体的な学習につなげることができた。また、教師は初めての教材にも関わらず、支援のポイントなどを知ることができ効果的な授業を行うことができた。

